



2009/04/01

鳥との出会い／シジュウカラ

東京オリンピック以前の小生がまだビールや焼酎に毒されていない年頃の休み中に、練馬の親類のお宅に滞在していた時のことです。

高度成長真っ盛りの東京は、首都高速や環状線など大きな道路工事、ビル建設で変わりつつありました。そんな中でも工事中の空き地の周辺はまだ武蔵野の片鱗が残っていてケヤキなどの大木に、今は都心では見かけにくくなったオナガも空色の長い尾でグエーイ、グエーイと群れをなし飛んでいました。

滞在中のある日、小学校の側を通りどこもおなじだと京都の母校の思い出と重ねて校舎や花壇を見ていました。その時、校庭の垣根の間から突如桜の古木の洞に飛び込んで行くものがありました。ほんの一瞬でしたが見慣れているスズメなどとは違って白、灰色、みどり、黒とずいぶんいろんな色の混じった変わった小鳥でした。学校で飼育している珍しい鳥が逃げ出して飛んでいるのかと思い、図鑑で調べるでもなくそれっきりになりました。

時が流れ小生は探鳥会にも参加する仕事に疲れたオッサンになになり、その幻の小鳥はごく身近な鳥であることを知らされました。しかしかつての一瞬の鮮明な記憶と一致せず納得できませんでした。

それからさらに年を経て仕事も卒業に近づいたある天気の良い日に、連れ合いと京都御苑に出かけた折のこと、私たちの後ろから目の前にあった古木の洞に飛び込んで行くものがありました。

それは木漏れ日に輝くかつての一瞬の風景と一致し、長年のもよもやが晴れやっと納得でき、その鳥はいっそう身近なものになりました。



カット：重政慶三

鳥と出会った人：望月 堯